

「第16回レスキューロボットコンテスト」における 消防庁長官賞の授与について

総務課／消防研究センター

1 レスキューロボットコンテストの開催について

平成28年8月6日（土）から7日（日）の日程で、神戸サンボーホール（兵庫県神戸市）において、「第16回レスキューロボットコンテスト」が開催されました（消防庁特別共催）。

消防庁では、自治体消防制度60周年の記念事業として第8回（平成20年）に初めて消防庁長官賞を設け、その後も継続して、先進的な科学技術の導入等により要救助者の負担軽減と効率的な救助を実現したチームに対して表彰を行い、今後の消防防災活動を支えるレスキューロボットの研究開発・実用化の推進に寄与しています。



第16回レスキューロボット
コンテストのポスター

2 レスキューロボットコンテストとは

日本におけるレスキュー技術の研究においては、平成7年の阪神・淡路大震災から得られた教訓を踏まえてレスキュー機器の技術的課題に関する様々な検討が行われてきました。ロボット技術の発展により、東日本大震災における福島原子力発電所事故の調査活動に活用されているものもあります。

レスキューロボットコンテストは、参加者が作成したロボットを操作し、ガレキに埋もれた人を救助するなどの課題に取り組むことで、レスキュー活動の重要性や難しさについて自ら考えるとともに、将来的にレスキュー機器等の開発に携わる青少年を育成することや、防災やレスキューの必要性について広く知ってもらうことを目的としています。

3 消防庁長官賞の受賞チーム

今回の消防庁長官賞は、「安全で確実な救助と被災者を思いやった搬送」の追及をコンセプトにレスキュー活動を行った「都工機械電気（チーム名）」が受賞し、コンテスト本選当日に消防庁消防研究センターの長尾一郎研究統括官より表彰状と盾が授与されました。



消防庁長官賞を受賞した「都工機械電気」
（大阪市立都島工業高等学校機械電気科）
※後列左端 長尾一郎 消防研究センター研究統括官

レスキューロボットコンテストでの評価のひとつに「フィジカルポイント」があり、要救助者に見立てた人形（ダミヤン）に内臓されたセンサーが力や衝撃を検出するとポイントが減少したり、時間の経過と共にポイントが減少していく仕組みです。



「都工機械電気」の迅速かつ要救助者の負担を軽減する救助方法によるフィジカルポイントの高さが評価につながり、消防庁長官賞の受賞となりました。

写真左：上半身アームで救助する「ケンタウロス」、写真右：二輪走行で要救助者を傾けることなく搬送できる「ホリゾンタルベッド」

コンテスト当日の詳細については、
レスキューロボットコンテスト公式ホームページ
<http://rescue-robot-contest.org/index.html>
を参照ください。

問い合わせ先

消防庁総務課（消防技術政策担当） 中越、小林
TEL: 03-5253-7541